

第2回 徳島県係留施設検討会 議事概要

日 時：令和7年11月6日（木） 15：00～17：00

場 所：万代中央ふ頭 第二倉庫アクア・チッタ

出席者：以下のとおり

委員

番号	会長	氏名	所属等	出欠	備考
1	○	山中 英生	徳島大学社会産業理工学研究部長	○	
2		奥嶋 政嗣	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 社会基盤デザイン系教授	○	
3		竹信 正寛	国土交通省国土技術政策総合研究所 港湾・沿岸海洋研究部 港湾施設研究室長	○	
4		木下 明	一般社団法人日本マリーナ・ビーチ協会 調査研究部長	○	
5		中村 英雄	特定非営利活動法人新町川を守る会 会長	○	
6		岡部 恭子	特定非営利活動法人アクア・チッタ 理事長	○	
7		阿部 晋也	徳島ヨットクラブ 会長	○	
8		三谷 泰生	あわクルージングクラブ 理事長	○	
9		關 博	有限会社小松島マリーナ 代表取締役	○	
10		吉本 創一	株式会社旭洋びざんマリーナ	×	

オブザーバー

1		国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所 河川占用調整課長	○	
2		国土交通省四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所 補償調整官	○	
3		海上保安庁徳島海上保安部 交通課長	○	
4		国土交通省四国運輸局 徳島運輸支局 首席運輸企画専門官	○	
5		徳島県県土整備部 河川政策課長	【代理】 副課長 澤本 憲司	
6		徳島県農林水産部 生産基盤課 水産基盤・国営担当課長	【代理】 主査兼係長 赤澤 良則	

【議事概要】

[事例紹介]

- ・木下委員より「放置艇対策を契機とするマリナー等の整備・運営例」をpptにて紹介。

<委員>

他県の指定管理者制度を導入しているポートパークの指定管理者のほとんどが警備会社だと聞いたことがある。船に関して知識がある業種ではないと思うが弊害などは出ていないのか。

<木下委員>

運営上何か問題があるというような話は聞いたことがない。実務に船の知識があるような方を入れてうまく対処されているのではないか。また、他県の事例（B00方式）では、外郭施設（堤防等）は県が、マリナー施設は民間が全額投資・整備・維持管理を行うモデルもある。

<委員>

第1回の会議で指定管理の話があっと思うが、徳島県のポートパークも事例紹介にあるような指定管理者制度で運営するようになるのか。

<事務局>

ポートパークのグレードによって運営方法も変わってくると思うが、指定管理制度や緑地PPP制度という手法もあり、検討会の中で意見を聞きながらハード整備のグレードも含めて検討していきたい。

<委員>

放置艇の主因は物理的な場所不足と民間マリナーの料金の高さである。また、先ほど、提示された豪華な海外・他県事例は、現在の利用率（ケンチョピア等）は高額であり、現実離れしている。利用者は高機能な設備（電気・水）より、安価でシンプルな場所を求めている。県庁前（海の駅）の賑わいや利便性を奪わず、観光とも連携した「水の都」としての街づくりを考えるべき。

<木下委員>

放置艇対策だけでなく、その場所を「賑わいのある空間」に変え、レジャー人口を増やすベクトルも必要である。利用者と関係者以外の市民双方が満足する場所にするため、まだ議論の余地がある。

<委員>

放置艇を收容するための「低価格な料金設定」が可能か、他県の柔軟な対応事例はあるか。行政代執行はあくまで最終手段であり、納得感のある移動先と暫定的な料金措置などの工夫が必要。

<木下委員>

放置艇利用者だけを優遇（低料金化）することは、一般利用者との公平性の観点から難しい。神戸などで料金に配慮した事例があるか、今後調査し共有したい。

<委員>

利用者、行政、県民の「三方よし（四方よし）」を目指すべき。現在のケンチョピアの料金に対し、事例の料金は倍以上の差があるが、背景を踏まえ前向きに検討したい。

[議事 3-1. 係留施設に関する検討について]

事務局より資料 1（①放置艇対策の取り組み状況、②第 1 回の概要、③係留施設の候補地について）について説明。

<委員>

賑わい創出の観点から「沖洲」が最適だが、外郭施設整備等の整備に時間がかかるようである。中心市街地からの早急な移動というところを考えると津田地区への「暫定施設」の整備が必要と考える。

<委員>

暫定施設なら杭を打たない浮き桟橋など最低限の投資に留め、本設（沖洲）完成時に移設可能なものが望ましい。

<事務局>

具体的な施設は今後、検討会で検討していきたい。暫定とはいえども十分な隻数の確保と、それなりの施設は必要かと考えている。また、津田は水深が浅いため、船種（ヨットとボート）を分けて浚渫を最小限にする工夫をする。

<委員>

津波被害を防ぐために移転するという観点があると思うが、ボートパーク候補地で津波被害のシミュレーションなどはするのか。また、静穏度の解析条件（年間の稼働率）も示すべき。

<事務局>

津波被害のシミュレーションは今後検討したい。静穏度は30年確立で計算した波浪に構造物や地形の反射度を加味して各地点で算出している。また、年間の稼働率という視点でも静穏度を検討したい。

<委員>

係留施設に盗難対策が必要だと思う。「船で近づく泥棒」への対策が必要。

<委員>

監視カメラや棧橋の出入口管理など、防犯への配慮を検討に盛り込む必要がある。

<委員>

万代町はビジターハーバー的な役割になると思っているが、ビジターハーバーといえど係留船のための燃料、水、休憩施設の整備が必要だと思う。

先日、スーパーヨットが係留した際にも多くの人が見に来て楽しんでた。もともとは物流のための港であったが今後は人のため、賑わいのための港になるため設備の充実というのが必要だと思う。

<委員>

係留施設の整備はいつ頃を予定しているのか。

<事務局>

マリンプィア沖洲は港湾計画で、小規模なボートパークとなっているが現状では静穏度が足りてない状況でそこからの整備となるとかなり時間がかかるのではないかと考えている。津田の第2水面貯木場あたりでは静穏度があり背後地が埋立て済みなので早期に整備できる状況にある。万代中央ふ頭はビジターハーバーをまちづくりと連携し順次できればと考えている。

<委員>

ケンチョピアが廃止されヨットや大きい船が係留されなくなった後のケンチョピアの計画も考えてほしい。何もないというのではなく。

<事務局>

県としてウォークラブルなまちづくりを推進することを目的に「県都とくしまウォークラブル推進会議」を設置し、徳島駅から万代中央ふ頭まで全体的なまちづくりを検討しているので、港湾として水域も連携しケンチョピアについても連携して考えていきたい。

<委員>

検討会としていつまでになんの結論を出すのか。放置艇対策のために恒久的な係留施設整備場所を決めるものと思っていたが、それぞれの候補地の役割で段階的に整備することなどを総合的に考えるということか。

<事務局>

今回、それぞれ3カ所の候補地についてメリット・デメリット、使い方について提案させてもらった。この内容で進めていくことに問題ないかということで議論いただきたい。今後、どのような施設の規模、グレード、どんな設備が必要であるとか議論いただければ。

<委員>

方針に対して異論はないが、放置艇対策と賑わいづくりを分離して考えているように見える。事例紹介を聞いて、融合させうまく利用し総合的に港をつくる必要があると感じた。今後、こういう検討が必要だと思う。

<委員>

放置艇対策として、水域利用は多分有料になると思うが、スーパーヨットなどの係留はどうするのかという話が出てくると思う。その使い方を意識したうえで検討が必要だと思う。

<事務局>

スーパーヨットの係留については試験的にはあるが実績がある。スーパーヨットも共存して係留できるポートパークにしたいと考えている。

先日も万代中央ふ頭にスーパーヨットが寄港した。単純な水域の係留施設というだけでなく背後地まちづくりと連携したものができればと思う。

<委員>

機能分担させていくつかの施設を上手に使い分けていくという考え方が重要だと思う。いろいろな機能を皆さんで知恵を出し考えていく丁寧さが大切。情報共有されていると思うが、観光部局の考え方などを紹介いただければ。

[議事 3-2. その他]

事務局より資料 2（今後の検討会スケジュール）について説明。

-以 上-